Class 02

伝統を受け継ぐ 地域のわ

地域の一員としての絆を深め、市内各地で大切に守り受け継がれてきた伝統芸能の数々。地域の文化を子どもたちへ伝えようと奮闘する2つの団体に焦点を当てます。



長谷山（はせやま）打囃子保存会

中田町浅水長谷地区に伝わる「長谷山打囃子」は、子どもからお年寄りまで、地域ぐるみで伝承活動に取り組んでいます。令和5年から浅水小の3、4年生を対象に指導しており、児童らが秋の学習発表会で打囃子と虎舞を披露しています。

▲打囃子を基本に、甚句、虎舞と、性別や年齢に応じて役割を分担しながら演じられる



長下田（なげた）神楽保存会

石越町北郷長下田地区に伝わる「長下田神楽」は、昭和56年から石越小の5、6年生を対象に指導が続けられ、毎年の運動会で披露されています。保存会には現在、60代以上の会員8人と、小中学生の準会員8人が所属し、共に保存活動に臨んでいます。

▲今年の「みやぎ県民文化祭」で2日目のトップバッターを務めたほか、市内外で多数公演している



千葉（ちば） 忠行（ただゆき） さん
長下田神楽保存会 会長

子どもと大人が支え合い伝統の神楽を守っていく

「長く大切に続けてきたお神楽を『やりたい』と言ってくれる子どもたちのためにも、できる限り受け継いでいかないと」と、千葉さんは力を込めます。

自身も地区の先輩たちから教わりながら、長下田神楽の保存・伝承に携わってきました。近年は、石越小での伝承活動にも今まで以上に熱を入れています。しかし、中心メンバーの高齢化が進み、20～40代の会員がいないことから、会は存続の危機に瀕しています。「地域の伝統としてみんな一度は経験してくれますが、卒業後も続ける人はなかなかいないんです」と、千葉さんは苦笑いを浮かべます。

こうした状況下で、新たな担い手として期待を寄せるのが、小学校での伝承活動などをきっかけに神楽を始めた子どもたち。中学2年生を筆頭に、現在8人の子どもたちが学校や習い事の合間を縫って練習しています。「大人の方が子どもたちに助けられている部分もあります。ただ、無理に続けてほしいとは思っていません。楽しみながら成長できる場として、無理なく参加してくれたらそれが一番」と、練習に励む子どもたちに温かい視線を送ります。

孫ほど年の離れた世代が互いに支え合い、力を合わせて伝統を未来へとつないでいく――。長下田神楽は担い手の熱い思いと共に、これからも地域で大切に受け継がれていきます。







▼▶神楽を通じて、離れた世代間の交流も活発に生まれている

Interview 受け継ぐ子どもの声

学校で神楽の魅力に出会い、これからも舞い続ける

小学校で教わった以外の踊りも覚えて、できる演目がどんどん増えてきました。毎回の練習もにぎやかだし、公演で色んな場所に行けるのも楽しいです。いつまで続けるか決めていませんが、できる限り続けていきます。



冨塚（なおや） 直哉（なおや） さん
石越中2年



猪又（かつひろ） 勝浩（かつひろ） さん
長谷山打囃子保存会 会長

学習発表会の舞台で地域の宝を学び受け継ぐ

「長谷に生まれた子は、3歳頃から親と一緒に太鼓をたたいて初舞台を踏むのが慣習だったんです」と、猪又さんはほほ笑みます。

長谷の伝統芸能は住民の手で脈々と受け継がれてきましたが、近年は地区内の小学生が6人まで減少。「最年少は小学1年生が1人。今の子たちも中学生になれば忙しくて参加できないし、後継者不足は否めません」と、表情を曇らせます。

そんな中、令和5年から始まった浅水小学校での伝承活動が新たな光となっています。児童らが地域に伝わる神楽などの伝統芸能を学び、その中から長谷の打囃子と虎舞の実演に挑戦しています。毎回の練習には、都合の付く会員が集まり、熱心に指導。子どもたちは真剣に、そして楽しみながら練習に励み、自主的に練習を重ねる姿も見られます。「難しいところも一生懸命演じてくれている姿を見ると、胸が熱くなりますね」。地区を超えた「浅水の宝」として子どもたちが伝統を学び、体験してくれることに、猪又さんは大きな喜びを感じています。

「いつかここを出ても、祭りの時期に太鼓や虎舞をしに戻ってくるような関わりが続けば、20年、30年先まで伝統をつないでいけるかもしれませんね」。太鼓の響きと共に、子どもたちの心には、ふるさとの思い出と温かな大人たちの姿が深く刻まれていくことでしょう。







◀▼10月17日の学習発表会では、児童らが練習の成果を堂々と披露した

Interview 受け継ぐ子どもの声

同級生にも「いいところ」を見せられた学習発表会



伊藤（かなと） 叶翔（かなと） さん（左）
及川（かいせい） 快晴（かいせい） さん（右）
浅水小4年

学校のみんなでお囃子や虎舞を披露するのは、普段、地区の人たちとやるのとは違った感じで面白かったです。もっとうまくなれるように頑張りたいし、次の世代に受け継ぐために、下級生にも教えてあげたいです。